

ハンドボール No. 20

Japan
Handball
Association



社会人
 学生
 高専
 高体連
 中体連
 小学生
 県協会

全国大会
 ブロック大会
 都道府県大会
 地区大会

男子
 女子

試合番号 菊池-女38

年月日	2019年8月6日(火)
大会名	令和元年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会

公式記録用紙

A 広島山陽学園山陽高等学校										B 県立水海道第二高等学校																		
熊本県 菊池市					菊池市総合体育館					3回戦																		
前半	A	B	最終結果	A	B	第1延長	A	B	第2延長	A	B	7m70-77分	A	B														
7m得点/総数	A チームタイムアウト			B チームタイムアウト			A チームタイムアウト			B チームタイムアウト			7m得点/総数															
	1/2	1	2 後半	3	1824	1147	1554	1	2 後半	3	2930	2356	3/3															
No.	広島山陽学園山陽高等学校						G	W	2'	2'	D	DR	No.	県立水海道第二高等学校						G	W	2'	2'	D	DR			
1	内藤 南												1	稲葉 沙海														
2	福島 美奈												2	田村 愛華							1	1						
3	南里 佳奈												3	加藤 晴桜						7								
4	小玉 幸采						1		1				4	中村 彩名						1								
5	建田 ひかる						1						5 C	竹村 ひなた						9								
6	大塚 里咲												6	岡本 楓						2								
7	杉原 あみ												7	吉田 彩希						2	1							
8	岡村 優衣							1	1	1			8	倉持 花帆														
10	宮本 朋香												9	野村 桜														
11	磯川 さくら						5						10	布田 咲						3								
13	長崎 楓												11	瀬崎 有菜														
14 C	倉岡 愛実						12	1	1				12	加藤 芽依														
15	植松 美結												13	服部 月鈴								1	1					
16	西村 千夏												14	上還野 空						2								
役員A	青戸 あかね												役員A	飯田 健一														
役員B	檜垣 美瑚桃												役員B	飯村 裕志														
役員C	濱部 碧												役員C	太田 愛未														
役員D													役員D															

A	青戸 あかね	チーム役員A署名	飯田 健一	B
---	--------	----------	-------	---

レフェリー	宮崎 和彦	篠田 政明	宮崎 和彦	篠田 政明
TD	葦原 大三	桑田 祐成	葦原 大三	桑田 祐成
MO	本田 眞吾		本田 眞吾	

得点(G),警告(W),退場(2),失格(D),報告欄付き失格(DR)特記事項に報告番号として内容を記入

ハンドボール N. 22

令和元年度全国高等学校総合体育大会
高松宮記念杯第70回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

戦評

開催日	2019年 8月 6日 火曜
会場	菊池市総合体育館
種別	女子
回戦	3回戦

スコア	チーム名	総得点	前半	総得点	チーム名
		山陽	19	12-12	26
			後半		
			7-14		
	第1延長		第2延長		7MC
	—		—		—
	—		—		—

※第1延長・第2延長及び7MCの得点は総得点に加算してください。

戦評	前半	山陽は、キャプテン倉岡が力強いロングシュートを連発し、14分に7-4とリードを奪う。対する水海道二は、高いラインを引く山陽に対し、ポストが動いて作ったスペースを突いて、上遠野のゲームメイクから、竹村、加藤晴がカットインを決めるなど4連取で、18分に7-8と逆転に成功する。ディフェンスにおいても素早いよせで粘り強く守るが、山陽倉岡が苦しいシュートを立て続けに決め、流れを渡さない。水海道二も竹村の得点などで、一進一退の攻防を展開し、12-12で前半を終了した。
	後半	後半開始は水海道二が2連取し、リードを奪うが、対する水海道二も倉岡、小玉で取り返し、リードを許さない。両チームともに退場者を出す苦しい場面の中、ペースをつかんだのは水海道二だった。素早くパスをつなぎ、せまい角度からレフトウイング布田のシュートを決めると、相手ディフェスが広がった隙について、立て続けに2度の退場を誘う。獲得した2本の7mTも1年上遠野が確実に決め、5点のリードを奪った。山陽は、エース倉岡が12得点と気迫を見せるが、プレッシャーをかけられ思うように得点が伸びない。水海道二は、吉田のウイングシュートや竹村のカットインでリードを広げ、19-26でベスト8に駒を進めた。

記入者	矢住 征規
-----	-------